

# みなと元町 TOWN NEWS



No. 319

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

## 安全・安心なまちづくりに向けた防災施策の総合展開

神戸市危機管理監 山平 晃嗣



さて元町・神戸周辺などの人が多く集まる場所では、自然災害に加え、都市部特有の新たな危機管理上の課題への対応も重要となっています。

ひとつは「世界的イベントへの対策」です。今年ラグビーワールドカップが開催されます。2020年には東京オリンピック・パラリンピック、2025年には大阪万博の開催も決定されています。これらのイベントでは、大勢の外国人や旅行者の方が神戸を訪れることが予想されます。警備が比較的緩やかな繁華街や大会会場などを標的としたテロが世界中でも後を絶ちません。神戸でも対策のひとつとして、関係機関との連携を通して危機管理体制の強化を図ることを目的に、2月17日にノエビアスタジアムにおいて「兵庫県国民保護共同訓練」を開催しました。また、「訪日外国人に対して災害や避難に関する情報をいかに的確に伝えるか」など、災害時における観光客への対応が必要です。神戸を訪れる方々にとって、安全・安心・快適に過ごせることは、積極的に観光振興を推進する当市の重要な責務であり、「観光危機管理」というテーマを掲げ、関連部局が連携して検討を始めています。

次に「帰宅困難者対策」です。平成23年に発生した東日本大震災では、公共交通機関の運行停止により首都圏で多くの帰宅困難者が発生し社会問題となりました。神戸市においても、通勤時間帯に発生した大阪府北部地震の際には混乱が生じました。大規模災害が発生し交通機関が途絶すれば多くの通勤・通学者、観光客、ビジネス客などが行き交う元町や三宮などの都市部では多くの帰宅困難者の発生が見込まれます。駅前などに多くの人が集中することによる群集なだれ、建物の火災や倒壊による

帰宅途上の負傷者の発生など、帰宅困難者自身の被害だけでなく、路上に溢れる人々により救助・救急や消火などの災害対応が妨げられるといった二次被害の拡大も懸念されます。そのようなことから、元町駅周辺では、貴会にもご賛同いただき「元町駅・神戸駅帰宅困難者対策地域協力会」を組織し、一斉帰宅抑制の啓発などに取り組んでいます。

大規模災害が発生した場合には、「公助」を担う行政の機能が大きく制限される中で、事業者を含めた個々人の自覚に根ざした「自助」と「共助」など、まち全体で取り組むことが大切です。

阪神・淡路大震災から、今年で24年を迎えます。これまで震災での経験をもとに防災体制の強化に努めてまいりましたが、その後の災害では、新たな課題も生じています。神戸をさらなる高みへ押し上げるため、危機管理室といたしましても、引き続き、防災に関する施策を総合的に展開し、安全・安心なまちづくりに向けて積極果敢に取り組んでまいります。

貴会の益々のご活躍とご発展を心から祈念いたしますとともに、神戸のまちの安全と安心を守るため、今後も引き続きご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。



山陽電鉄(須磨～垂水)

### 「元町・夢街道」

書店の話(20)

#### 兵庫県書籍雑誌商組合①

岩田 照彦

柏は、宝文館の社主である吉岡平助に、これから設立する組合の副組合長就任の同意を得ると、神戸開港後、早々に書店を開いた熊谷幸介に組合長就任の内諾をとりつけ、明治三十九年十二月一日、元町六丁目の月花亭で、兵庫県書籍雑誌商組合の創立総会を開く。

集まったのは熊谷幸介(熊谷久栄堂)、柏 佐一郎(宝文館神戸支店)、石丸甚八(日東館書林)、川瀬光吉(川瀬日進堂)、渡辺正五郎(福音館・元町通一丁目)、石原類太郎(三宮神社境内)、平野寶盛堂(兵庫江川町)、高梨熊太郎(東神堂・多聞通二丁目)、川瀬三郎(川瀬日進堂支店・多聞通二丁目)、和田九兵衛(西宮市)、吉原清三郎(文栄堂・尼崎市)、福井定次郎(有馬郡三田町)、葉師寺卯兵衛(明石市樽屋町)、福井宗吉(明石市西本町)、下司徳太郎(清文堂、下司徳太郎)、坂田林之助(文盛堂・加東郡小野町)、西村房吉・木村治作(姫路市中二階町)、藤尾泰蔵(相生堂・加東郡市場村)、照本勇次(加東郡社町)、竹内伊八郎(伏見屋・揖保郡龍野長)、志水與吉(ひさや・宍粟郡山崎町)、石田松蔵(城崎郡豊岡町)、中井正吉(水上郡柏原町)、谷基太郎(百足屋・水上郡柏原町)、小山富之助(小山書店・多気郡篠山町)、

福浦文蔵(藻文堂)の二十七名だった。

役員者は、準備会で一任された柏が発表する。組長に熊谷幸介、副組長に宝文館代表者の吉岡平助代理として柏が就任、①組合相互の親睦を図ること、②時弊の匡正を為すこと、③定価販売の励行、の三つの目標を綱領に発足した。

第二項にいう「時弊の匡正」は、その時代の弊害になつてきているものを正しい状態に直すことであり、その目的は第三項で明確にする「定価販売の励行」だ。組合の設立は、業界にとって、切実な課題の域にまでふくらんでいた。書の出版や販売に取り組む店主たちには、国の文化をいかに守るべきかという深い思い入れもある。「業界」というには未熟な書店界を国の文化を背負う軌道に乗せるため、組合綱領を「定価販売」に絞りこみ、会員の理解と協力を確立する必要に迫られていた、といつても過言ではない。

前回にも登場したが、吉岡宝文館退社後、取次店として大成した岸本栄七の存在が大きかった。発足時には顔をみせていないが、岸本は安政二(一八五五)年生まれ、柏の先輩にあたるともに、書籍の流れを熟知する取次店の立場にあり、書店の割引販売は、岸本にもはねかえってくる問題でもあったろう。岸本が積極的に組合の設立に動いたのも理由のないことではないが、柏と岸本の連携により、兵庫県全域に組合の力を発揮していくことになる。

### 栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は2月8日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(神戸市住宅都市局)坂田竜一・田中淳也、(兵庫県信用組合)八木基裕・岩田彩希・仲川雅夫・亀田仁・(広島銀行)吉村なごさ、(神明倉庫)藤尾憲弘・十時実希、(佐野運輸)末松明・北島幸宏、(走水神社)兒嶋英毅、(まちづくり会館)小椋辰海、(新光明飾(株))中川俊・西村友博・藤田直之、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、18名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



### 編集後記

「みなと元町タウン協議会のネーミング」に感心して、「協議会」は当然として、「みなと元町タウン」は、地域を表すにはびつたりの表現だ。「みなと」は広さや潮の音を響かせるひらがなで、固有名詞であるまちの名前は、歴史と脈を語る「元町」は、そのまま使用、「タウン」は、そのなまを想像させるカタカナで表現した。日本語の字体を勢揃いさせ、音感もよいこの名称の作者は、一体誰だったのか。みんなの総意、とはいえ、骨格を提言した名付け親がいたにちがいないと気づいていたところ、タウンニュース五号に、真田・三木・西村坂田の幹部四名が、神戸市都市計画局計画部アーバンデザイン室を表敬訪問した際、あいさつの中に「協議会の創立にあたり(中略)ネーミングを決める際にも特に小西(阿佐男)主幹のアイデアを多分に採用させて頂いた」の記事に遭遇、弊会への思い入れをみたような...

### 神戸元町商店街 楽市楽座 情報 3月

- ◇元町1番街商店街振興組合 TEL.331-7850  
水曜市 3月20日(水)11時~19時
- ◇元町6丁目商店街振興組合 TEL.367-5477  
モトロク市 3月2日(土)11時~17時  
(毎月第1土曜日開催)
- ◇風月堂ホール(有料) TEL.321-5555  
もとまち密着「感雑著」 3月10日(日)  
春之輔改め 四代目 桂 春團治 襲名記念公演  
桂 咲之輔 林家 菊丸 桂 春團治  
桂 春若 中 入  
記念口上:春團治・春若・勢朝・梅團治・菊丸  
南京玉すだれ:桂 勢朝  
春之輔改め 四代目 桂 春團治(主任)  
前売券は2月11日より風月堂で発売
- ◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523  
3月7日(木)~3月12日(火)  
兵庫倶楽部第56回写真友会写真展(写真)

- 3月14日(木)~3月19日(火)  
第26回くた15人会(油彩)
- 3月21日(木)~3月26日(火)1945年の神戸
- ◇元町映画館(有料) TEL.366-2636  
3月2日(土)~3月8日(金)  
「想像だけで素晴らしいんだ」
- 3月9日(土)~3月15日(金)「津軽のカマリ」
- 3月9日(土)~3月22日(金)  
「13回の新月のある年に」  
特集「アラン・ロブ＝グリエ レトロスペクティブ」
- 3月16日(土)~3月22日(金)「真つ赤な星」
- 3月16日(土)~3月29日(金)  
特集「イタリア クラシック映画祭」
- 3月23日(土)~3月29日(金)  
「モアナ 南海の歓喜」
- 3月23日(土)~4月5日(金)  
「山(モンテ)」・「第三世代」

## 海という名の本屋が消えた (64)

平野義昌

### 川崎・三菱大争議と賀川豊彦(その3)

賀川豊彦が逮捕直後に綴った詩を紹介する。「留置場の歌——神戸三ノ宮警察署の留置場にて——」(1921.7.30)。

〈獄屋の屋根に／日は暮れる／独居を喜ぶ私は／瞑想と祈祷に 執筆に／獄屋であることを忘れて／日を送る。(中略)そして私は労働者の扇動者として／罪もないのに／囹圄の身となった。／今更あらだてて／資本主義を呪うまでも無いが／監房の裡に／久し振りに取り返した／独居のよろこびを感謝する。(中略)私はどんな時も／騒ぐ心は持って居りませぬ。／数万の労働者が赤旗黒旗で／示威行列を行って居る時でも／一万五千の職工が／韋駄天走りに／突撃する時でも／私の心は平静です。(中略)私は友なる三万の労働者を捨てて／一人安居することは出来ない／彼等の悪、彼等の失敗と躓き——／それらに対しても 私はその責任を／全部帯びる／私は 今になって／三万の労働者を捨て去ることは出来ない。(中略)死ぬなら 彼等と共に／罰せられるなら 彼等と共に／ただ 私は 解放の日のために／強気 生きて居りたい!〉<sup>註1</sup>

賀川は神戸監獄橋分監に移送される。後年、自伝小説で「貧民窟に比べて、監獄は王宮であった」と振り返っている。独房は石造二階建て、涼しく、看守は親切、優しい言葉を掛けてくれる。同志たちは賀川が同じ獄にいることを喜び元気づく。あまりにも賑やかになり、賀川は女囚監に移された。女性看守もこまめに世話をしてくれる。

〈……今日まで、貧民窟の虐待に堪えて来た彼は、看守らが破落戸よりも凶暴であるとは考えなかった。それで彼は看守らのすべてに対して笑顔を作って、そして看守らも彼に対しては、親切であった。〉<sup>註2</sup>

賀川は獄中で静かな生活を得て、心身を休めることができた。それほど賀川の活動は激務だった。

8月5日、吉野作造が演説会のため来神。神戸新聞のインタビューに応え、賀川の工場管理について意見を述べた。吉野は友愛会設立に関わったが、当時は距離を置いていた。

〈……賀川氏の所論は資本家を苦しめんとする同盟罷業が社会に災害を及ぼさん事を恐れて其の生産を継続せんとしたに過ぎぬ。随って占領とか或は所有権の移動とかは絶対に肯定されぬ議論だと信じる。(後略)〉<sup>註3</sup>

吉野は争議解決のため、賀川の釈放だけではなく全員を一時釈放し、第三者を選出して一任、と提案した。

賀川の獄中詩「塵紙にかきつけし歌——監房にて——」(1921.8.7)。

〈……看守等の 心めてたや 朝顔を 鉄窓つたい 植えしゆかしさ (中略)／わが友は 監房の戸口に 額あて よよとぞ泣きぬ 眼もあてられぬほど／監房に一杯の水 うくるとき 人のなさげの ありがたくもあるかな (中略)／独房の、中を ぐるぐる廻りつつ 塵紙とりて 文字を書く我／獄屋までもりくる響 ハンマーと 川崎の笛の 憎くもあるかな (後略)〉<sup>註1</sup>

8月10日21時20分、賀川釈放。日の暮れ前から川崎三菱争議団メンバー約千人が出監を待った。

〈纏て時は来た。裏門に見えた看守長の白服姿ピツカリと門内の暗に吸い込まれたかと思うと門はパッと開いて莞爾した賀川氏の瀟洒たる私服姿が瞥と現れた。

出迎への誰れ彼れは婉然電気にでも吸いつけられるように我れを忘れて周囲に駆けつける。「お芽出度う」「御機嫌よう!」と薙めぎ合いながら握手を繰り返す。(後略)〉<sup>註3</sup> 写真

賀川は新聞各社写真班のフラッシュを浴びた。出迎えに感謝し、争議結果は遺憾の至り、捲土重来を期待、と挨拶をした。

釈放後、自ら発行編集する『労働者新聞』8月15日号に書いた。

〈日本の労働者階級は今や根底より目醒めた。今や彼等はただ賃金の値上げや、時間の短縮の問題で働いて居るのでは無い。彼等は人格の自由と生産者の根本的解放の為に動いて居る。(後略)〉<sup>註5</sup>

とはいえ、賀川の理念(労働者の団結および人間としての自覚・正義・愛)と方針(無抵抗主義と秩序ある団体行動)は争議で敗北した。労働運動は直接行動主義に向かう。

争議団幹部内にも、賀川の考え方を宗教者の偽善・独善と批判する者がいた。著書『死線を越えて』をお涙頂戴小説と貶す者もいた。同書は当時大ベストセラーで、出版元・改造社は争議の進行に合わせて連日新聞広告を掲載していた。賀川が意図したことはないが、批判者たちには腹立たしいことだった。

過激な意見が多数派になっても、賀川の考えは変わらない。『労働者新聞』10月1日号。

〈「暴力や、武力や、金力で築き上げた、外面的な仮想的な権威の下に出来上った社会組織はすぐ潰れて了う。そんなものの上に我等は新社会を築きたくは無い。理想主義を捨てた時に労働組合は社会改造の動機としての使命を喪失して了うのである。〉<sup>註5</sup>

賀川支持者も多い。9月の関西労働同盟大会、10月の総同盟全国大会、それぞれの中央委員に選出された。〈賀川が労働運動に対して依然大きな影響力をもっていたもう一つの、ある意味ではもっとも大きい要因は、労働運動に対する賀川の資金的援助であった。当時の組合は資金的には貧弱であったし、指導者たちも争議をして首を切られればたちまち生活に窮した。この面倒をひとりひとり見てやり、運動上の必要なまとまった資金を提供したのは賀川であった。〉<sup>註5</sup>、補註

それなのに、12月大阪天王寺公会堂での講演会に登壇すると、「引込め」どころか、「ばらせ!」「葬れ!」など物騒な野次に晒された。味方の聴衆たちは応援の声を飛ばした。賀川は翌22(大正11)年の著書で労働運動から退く覚悟を書いている。

〈……労働階級が強いて私に脱退してくれと云うならば、私は少しも未練はありません。(中略)それで私は労働運動から脱退させられる日があれば、私はまた貧民窟の路次を廻る時間を多くして、貧民窟の悪太郎の遊び相手となる迄です。／ただ私は日本の労働運動が暴力、階級争闘で導かれてはならぬと考える時、私はじつとして居ることが出来ないのです。〉<sup>註6</sup>

賀川は運動の暴力化を危惧した。

〈……賀川は労働運動が地についた運動として展開されるためには、労働者の教育こそが重要であると考えられるようになってきた。〉<sup>註5</sup>

1922(大正11)年6月、大阪市内の教会に大阪労働学校を設立。週3日、夜2時間半開講、3ヵ月を一期として二期で修業、授業料は一期3円。講師は賀川他、大学教授、弁護士、新聞記者。授業科目は、経済学、財政学、政治学、労働法、社会運動史他、時事問題など特

別講義もあった。1928(昭和3)年4月時点で修業者は550名を超えた。<sup>註7</sup>

内務省が労働運動の動向を監視していた。「急進分子」が賀川らの「行動を掣肘せんとするが如き拳あり」、賀川らは「矯激な労働運動に与し難く」、両者間自然溝渠を生ずるに至れり」と分析した。<sup>註5</sup>

22年4月、久留弘三(争議団総指揮)が総同盟と絶縁し、賀川も中央委員会・関西理事会欠席が続いていた。『労働者新聞』に最後の寄稿(22.7.15号)をする。

〈「日本の危険は刻一刻に迫りつつある。善意による改造運動は段々姿を隠し、脅迫と脅迫が最後の闇を日本に落とし、日本は常闇の昔に帰らねばならぬかも知れぬ。その日を見たく無い為めに、私達は静かに真正の労働組合運動により社会の建替を急がねばならぬ。然しそれが成就せぬ前に闇が先に来はせぬか。私はそれを恐れて居る。〉／賀川は労働運動に幻滅を感じた。労働運動はもはや賀川を必要としなくなった。〉<sup>註5</sup>

賀川は労働運動の中心から退くが、独自の活動を広げる。22年1月にイエスの友会機関誌『雲の柱』、農民組合機関誌『土地と自由』を発刊、4月農民組合創立大会開催、6月労働学校設立。23(大正12)年9月関東大震災救援活動開始、拠点を東京に移す。25(大正14)年6月救癩協会設立。26(大正15)年3月労働農民党結成、5月学生消費組合結成など。

賀川の敵は貧困という巨大な悪、人類的課題だ。非難・孤立を恐れず、強い意思で先駆的社会活動を展開していった。賀川はキリスト教を信じ行動したが、賀川を支持する人たちは賀川その人を信じた。

<sup>註1</sup> 『賀川豊彦全集20』キリスト新聞社 1963年(初版 永遠の乳房)福永書店 1922年)  
<sup>註2</sup> 『統続・死線を越えて 壁の声きく時』社会思想社教養文庫 1983年(初版1924年改造社刊)  
<sup>註3</sup> 「神戸新聞」1921.8.6  
<sup>註4</sup> 「神戸新聞」1921.8.11  
<sup>註5</sup> 隅谷三喜男『賀川豊彦』岩波書店同時代ライブラリー 1995年  
<sup>註6</sup> 賀川豊彦『星より星への通路』改造社 1922年  
<sup>註7</sup> WEB「THINK KAGAWA」<http://dl.hatena.ne.jp/kagawa100/20100402/1271055342>  
賀川著作・新聞原本は旧字旧かな。  
補註 隅谷上掲書より。賀川の印税収入は莫大で、村嶋輝之(毎日新聞記者)が「死線を越えて」印税約10万円の用途を記録(1940年現在)。神戸労働争議後始末費用3万5千円、日本農民組合費用2万円、鉱山労働運動費用5千円、友愛救済所基本金1万5千円、消費組合設立費用1万円、労働学校基金5千円、その他社会事業費1万円。



## 出来事ファイル (No.19-3)

### ■「meet Me」前にモニュメント

海岸通5丁目にあったレストランの壁面で、長年、乙仲通をPRしてきた宮崎みよさんの作品「乙仲通モニュメント」は、同店舗のあったビル解体のため撤去、同氏により保存されてきた。1月11日、栄町通3丁目にオープンしたホテル「meet Me」前植込みの一面に再登場、芝生敷きの快適な住まいを得たモニュメントは、道行く人たちが遠来の客人へ、乙仲通の由来を引き受ける。



### ■埼玉県南4市から視察団

1月24日(木)、埼玉県南部に位置する川口・草加・蕨・戸田4市が、魅力ある未来都市の建設を目的として組織した「埼玉県4市まちづくり協議会・商工振興専門部会」のメンバーが元町商店街を訪れた。景観形成市民協定・災害対策・インバウンド・補助金・広告媒体・消費税増税対策・大手資本店との関係など、1時間余、多岐にわたる質問に連合会会長らが対応。



### ■北野「雑居地」ものがたり

元町三丁目商店街振興組合で広報部長をつとめる橋本友宏さんが、月刊神戸っ子2月号にモデルとして登場した。煉瓦塀の前で、スポーツタイプの自転車を従え、洒落たマフラーにジャンパー姿でたたく橋本さん。記者から、足首をいつも出しておられますが、寒くないんですかと訊かれ「35歳を過ぎたあたりから相当ムリしています。オシャレは我慢です(笑)」



### ■若手音楽家3人コンサート

2月4日(月) 18時30分から風月堂ホールで、神戸ゆかりの若手音楽家3人によるコンサートが元町商店街と神戸元町ミュージックウィーク実行委員会主催、神戸市民文化振興財団の協賛で開催された。ピアノ・鈴木優人、ヴァイオリン白井圭・瀧村依里で、D.シヨスタコーヴィッチ3つの小品op.9より、F.クライスラー 愛の喜びなどを披露、招待客を楽しませた。



### ■南京町春節祭

第31回南京町春節祭が2月3日から11日まで開かれた。期間中は、京劇の衣装で三国志の英雄や楊貴妃などに扮した一行のパレード、広場での紹介、女性による変臉や雑技、獅子舞、歌や二胡による演奏会、太極拳などで来場者を楽しませた。また全長47mの金龍や獅子舞がまちを練り歩いたほか、広場周辺では切り絵の実演販売や占い、ポチ袋くじのほか、店では期間限定の迎春宴など盛り沢山の企画で来場者を楽しませた。



### ■事業所での待機を前提に帰宅困難者対策への取り組み



神戸市危機管理室は、電鉄各社が合流する三宮地区で、災害発生時に想定される帰宅困難者への対応策について地元関係者との間で協議を進めている。元町でも同様な事態発生を想定して2月1日(金) 15時30分からまちづくり会館2階ホールで、企業会員・自治会・商店街関係者を対象に、神戸市危機管理室防災体制推進担当・橋本寛記係長が帰宅困難者対策について講演会を開いた。

講演は、平成30年度に発生した大阪府北部地震・7月豪雨・台風12号・20号・21号・台風24号などを映像で紹介。その後、南海地震・東南海地震・東海地震をまとめて「南海トラフ地震」と呼ばれる地震が、今後30年の間に70～80%の確率で発生、その規模はM8程度以上の大地震が予想され、同地震により発生が予想される津波の水位は3.9m、神戸市中央区までの到達最短時間は91分。これに対しては、山手幹線より山側に避難する事、出来ない場合は、建物の3階以上に避難することなどが説明された。

事業所などで帰宅困難者が出た場合、①「安全な場所からむやみに移動しない」で一斉帰宅を抑制すること、②「行き場のない人」には一時滞在施設の確保(施設の開放)、③「徒歩帰宅可能者」には帰宅支援ステーションを設け、迅速・正確な情報提供を行うことなどの基本方針が説明された。

元町駅周辺の取り組みについては、みなと元町タウン協議会ともまちハーバー懇談会を母体に「元町駅・神戸駅帰宅困難者対策地域協力会」として、帰宅困難者対策への基本的な考え方の普及と一斉帰宅抑制に関する啓発を行う方針が披露された。なお協力会の窓口は、協議会委員の奈良山貴士(㈱ナラヤマ)・阿部秀樹(日本中央競馬会)の両氏。



#### 説明会参加団体

大林新屋不動産(㈱)大阪支店 (㈱)神戸プラザホテル (㈱)神明ホールディングス 角南商事(株) J R西日本(株) J R Aウインズ神戸 阪急阪神ビルマネジメント(株) 阪神電気鉄道(株) エスタシオン・デ・神戸 兵庫総合警備(株) 神戸ハーバーランド(株) 兵庫県医師国民健康保険組合 (社)サニーピア医療保健協会 銀泉(株) NPOあいあいネット神戸 NTT都市開発(株) 元栄海2丁目自治会 元栄海3丁目協和会 元栄海4丁目町内会 元町6丁目自治会 元町3丁目商店街振興組合 元町商店街連合会 国土交通省神戸運輸監理部 こうべまちづくり会館 神戸市住宅都市局景観政策課 神戸市中央区役所 みなと元町タウン協議会 自治会、商店街関係者など40名参加。